

国語 第5学年 浦島太郎——「御伽草子」より 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：古典の内容の大体を知り、昔の人のものの見方や感じ方を文章に基づいて考える。知っている現代の話と同一視しない。C(1)オの学習として、作品中の行動や言葉、そこから考えた感じ方、自分との共通点・相違点。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、読んで理解したことを基に、作品の人の感じ方について自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：作品中の行動や言葉、そこから考えた感じ方、自分との共通点・相違点を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：現代版のあらすじだけで説明する、昔の人は全員同じ考えと決めつける。これに対して、今回扱う文章の出来事と解説を分けて読む。現代の言葉への言い換えは理解の補助にし、作品中で確かめられる行動や言葉に戻って感じ方を説明させる。〔知識及び技能〕(3)イとC(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この作品の人は、何を大事にし、どう感じていると読めますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：作品中の行動や言葉、そこから考えた感じ方、自分との共通点・相違点は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：現代版のあらすじだけで説明する、昔の人は全員同じ考えと決めつける。今回扱う文章の出来事と解説を分けて読む。現代の言葉への言い換えは理解の補助にし、作品中で確かめられる行動や言葉に戻って感じ方を説明させる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この作品の人は、何を大事にし、どう感じていると読めますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

